

# 岩手教区報

第398号  
立教189年2月1日  
天理教岩手教務支庁  
盛岡市馬場町3-40  
TEL 019-622-7962  
FAX 019-623-9597



## 母の一言「よかったね」 道の教職員の集い代表世話人 門間道明

1月26日、教祖140年祭が執行されました。親神様、教祖に年祭活動の報告と、三年千日をお連れ通りいただいた御札を申し上げ、次なる塚への出発点として、有意義な年になるようお願いして、心して参拝させて頂きました。

平成13年に教会長を拝命してから丁度10年目に、歯肉腫瘍ステージ4の診断を受けました。その後6か月間入院し、命の危険にさらされたり、術後に顔がバスケットボールほどに腫れ上がったりと、種々困難な経験をしたが退院しました。家族や信者さん方には、相当心配をかけたと思います。表題は、退院後教会に帰り、母から掛けられた最初の言葉です。

母は未信仰の家庭で育ち、19才の時、親同志が知り合いという仲で、夫となる人の顔も家業も知らないまま、千厩から盛岡の父のもとに嫁いできました。嫁ぎ先の玄関を開けて初めて天理教の教会であることを知り、母の耳もとで「3日経ったら戻っておいで」と言っただけで、すぐ千厩に帰っていったそうです。厳しい祖母でしたので、床につくまで起きていて夜なべをし、修養科に入る時も、食料難の時代の中、汽車に乗って行く際、衣服の中に米を忍ばせておちばへ帰つ

たそうです。修養科を了えて盛岡に戻ってから、赤子を背負いながら、毎日にをいがけに歩きました。祖母の出直し後、父である前会長の手足となつて、5人の子供を育てながら得意な裁縫を生かし、布団や座布団作りの手仕事をして教会の家計を支え、生活の土台を作ってくれました。

18年前、父が出直してから間もなく母の耳が聞こえにくくなりました。その2年後に私が前述の身上を頂いたのです。退院後母は、「退院、おめでとう」ではなく、「よかったね。今まで他人様の身上話しか話せなかったけど、これからは自分の身上話でいいがけ、おたすけができるね」と。最初は理解に苦しみました。母が経つにつれてその言葉の重さがひしひしと伝わってきました。あの時の母の一言が、私の心をいがけ、おたすけに臨む礎となり、一日一日の通り方を変えたと思っています。

90歳過ぎてから認知症を患い、3年前には誤嚥性肺炎で入院し、一昨年介護施設へ入所しました。今月末98歳になります。お道の信仰をまっすぐ通って生きて来た母を、私たちは最期まで、しっかりと身守っていきます。



### 「おちばがえり(三)」

おちばは、かぐらづとめがつとめられる所です。このかぐらづとめによって、あらゆる身上、事情のたすけを引き受けられると教えられます。

年祭に向けて教会長登殿参列があり、かぐらづとめを拝された教会長さん方はお分かりだと思いますが、かぐらづとめは、かんろだいを囲んで、十人のつとめ人衆が、立つておつとめになります。第一節のおつとめでは、「あしきをはろうてたすけたまえ」までは、足を右左と交互に踏みながら、お手は私たちが朝夕勤める手振りと同じですが、「てんりおうの」で右足左足と下がって、「みこと」で右足左足と前に出て、十全のご守護の理を現すそれぞれ違う手振りです。いざなぎのみこと、いざなみのみことは便宜上、かんろだいの東側で向かい合つて、つ

とめられますが、それ以外の八人のつとめ人衆は、かんろだいを挟んで、お互い補い合う守護同士が二つ一つになって向かい合い、そして十人が一手一つになり、前進後退を繰り返してつとめられます。その様子は、かんろだいの上から見れば、規則正しく収縮と弛緩を繰り返す心臓の動きそのものです。この世は神の身体やお教え下さることを思うと、かぐらづとめは、この世界の心臓の働きをしているようにも思えます。

心臓は、血液に酸素と栄養分を乗せて、身体中の隅々の細胞にまで届けてくれています。そして、戻る時には、その細胞から出た二酸化炭素と老廃物を運び、また心臓から新たな酸素と栄養を乗せて届けてくれるのです。

かぐらづとめが心臓の働きであるならば、血液の働きはわれわれようぶくの働きです。かぐらづとめで、かんろだいからこんこんと湧き出る泉のような、生命のエネルギーを、酸素と栄養の代わりに持つて、それぞれの地域にいる身上事情の方々にそれを届ける。そして、二酸化炭素と老廃物である、悩み、苦しみを頂いて、またおちばに帰る。さらに、またかぐらづとめで、また新しい生命の力を頂いて帰り、送り届ける。この繰り返し

(おちばがえり)で、おたすけをさせて頂くのが、私たちようぶくのつとめです。



### 計報

高橋 ミシエ さん(100歳)  
二戸支部・北福岡分教会長  
令和8年1月10日出直された。

### 行事予定 【2月分】

- 1日 役員会議(10時30分)
- 7日 教区社友研修会(13時)
- 14日 青年会例会(18時)
- 14日 献血呼びかけひのきしん(10時)
- 学生会例会(10時)
- 学生担当委員会例会(19時)





「雅楽初心者勉強会」報告

教区祭事部は12月14日(日)、教務支庁において、「雅楽初心者勉強会」を開催し、3人が参加した。

今回の講師は、権谷正一氏(笙・南平分教会長)、田中範道氏(箏・五戸分教会長)、権谷一平氏(龍笛・南平分教会ようぼく)の3氏。

午前の管別練習では、基本技術の習得につとめ、平調以外の曲目にも挑戦した。昼食後の合奏練習では、合奏の際の注意点や演奏を楽しむコツなどを学び、勉強会は終了となった。

なお来年度も開催する予定ですので、初心者、経験者、老若男女問わず、多数のご参加をお願いします。



## 祭事部

### 「雅楽初心者勉強会」報告

「献血呼びかけひのきしん」報告

教区献血たすけあいの会は、岩手県赤十字血液センターより依頼を受け、12月14日(日)、イオンモール盛岡南(盛岡市本宮)において「クリスマス献血」呼びかけひのきしんを実施し、3人の教友が参加した。

今回は大勢での呼びかけではなく、各ボランティア団体ごとに実施日と場所、時間帯が異なる形での活動となった。

私たち献血たすけあいの会は、地区の保険推進員の皆さんと共に、午後1時30分から約3時間呼びかけひのきしんを行った。当日は朝から大雪となり、寒さ厳しい日であったので、受付29人、400ml献血20人の成果があったが、脈拍や血圧が原因で献血できなかった人も多く課題が残る結果となった。

来たる2月14日(土) 10時から16時30分まで、イオンモール盛岡(盛岡市前湯)において実施される「バレンタイン献血」に参加し、呼びかけひのきしんを行う予定。



## 献血推進委員会

### 「献血呼びかけひのきしん」報告

「献血推進研修会」【3月1日】

教区献血推進委員会は、献血ひのきしんのより一層の充実と発展を期する上から、左記の要項で「献血推進研修会」を開催します。今回も岩手県赤十字血液センターから講師を招き、血液事業についてお話を頂きます。一人でも多くのご参加をお願いします。

記

日時	3月1日(日) 10時～11時
場所	教務支庁
講師	川上寛正氏(赤十字血液センター 献血推進課推進係長)
主旨	血液事業の現状と課題を把握し、献血ひのきしんの推進に役立てる。

※参加希望の方は、2月27日迄に小笠原委員長へご連絡下さい。

**教区社友研修会**

日時 2月7日(土) 13時～17時

会場 教務支庁

対象 支部長、支部社友、他。



## 学生担当委員会

### 「学生会総会」「まなびば」報告



教区学生担当委員会・教区学生会は12月6日(土)から7日(日)にかけて、教務支庁を会場に「学生会総会」、並びに学生の集い「まなびば」を開催し、中学生含む学生9人、担当委員7人、計16人が参加した。

6日午後1時からの学生会総会は、はじめに座りづとめとよろづよ八首を参加者全員でつとめさせて頂き、続いて式典となった。「諭達第4号」を拝読した後、鈴木眞浩教区学生担当委員長が挨拶に立ち、「教祖140年祭を目前に控え、学生としての徳分を活かして、お道を歩む仲間を増やし、教理とひながたの探求に努めて頂きたい」と話した。次に本部学生会

委員長のメッセージを中臺花音学生会副委員長が代読し、「教祖140年祭学生おちばがえり大会に、一人でも多くの学生を誘い合って、教祖にお喜び頂けるよう共に頑張ろう」との内容であった。最後に崎山陽平教区学生会委員長がお礼の言葉を述べ、総会は終了となった。

総会に引き続き、学生の集い「まなびば」の開催へと移行した。

「まなびば」では、様々なグループワークを通して、お互いを理解することの大切さや自身の信仰を見つめ直し、親神様のご守護についても深く学ばせて頂いた。また、鈴木教区学担委員長が「いちれつきようだい」について言及する一コマもあった。最後のふりかえりでは、自分たちの進むべき道や志について確かめ合う機会となった。



## 青年会

### 「三年千日の集い」報告

教区青年会は12月13日(土)、教務支庁を会場に「三年千日の集い」を開催し、会員ら9人が参加した。これは年祭活動の一環として三年千日1年目から実施してきたもので3回目となる今回は、布教実動を主にした活動となった。



午後2時に集合礼拝の後、村松義朗教区青年会委員長より「1人では出来ない事を実行に移すことが来るのが青年会の良さだと思う。お互いに勇ませ合って頑張ろう」との挨拶があった。

続いて街頭に移動して実動となり、神名流し、路傍講演、戸別訪問を勇んでつとめた後、教務支庁にて、活動の「ふりかえり」を行った。その後の懇親会では、情報交換などの有意義な時間を過ごした。翌朝、教務支庁駐車場の除雪ひのきしんを実施して解散となった。

なお今回、青森教区から小田真二青森教区青年会委員長が参加し、青森、岩手の両教区青年会の絆が深まった活動ともなった。